

完了後の評価個表

整理番号 5-1

| | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|------------------------|------------|---------|-------------|------------------------|---------|-------------|------------------------|------------|------|------------------|
| 事業名 ふりがな 地名 | 森林居住環境整備事業 けんがたけ 剣ヶ岳地区 | 都道府県 事業実施主体 | 福井県 福井県 | | | | | | | | | |
| 関係市町村 | あわら市、坂井市(旧金津町、丸岡町) | 管理主体 | あわら市、坂井市 | | | | | | | | | |
| 事業実施期間 | H14~H19(6年間) | 完了後経過年数 | 5年 | | | | | | | | | |
| 事業の概要・目的 | <p>① 位置等 当地区は、福井県嶺北東部に位置し、東西約2.5km、南北約23kmにおよぶあわら市から坂井市までの剣ヶ岳および刈安山を代表とする山地に囲まれた山間地である。</p> <p>② 森林の状況 当地区的森林面積は1,858ha全てを民有林が占め、そのうちの約58%、1,085haがスギを中心とした人工林となっている。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意義 当地区においてはこれまでに1,085haの人工林が造成され、森林蓄積は着実に増加しているものの、その多くは保育・除伐及び間伐等が必要な段階にある。 また、木材の生産という経済的側面のみならず、地区下流域の生活用水の確保、保健休養の場として地域住民の生活向上に大きな役割を果たしており、この多面的機能を持つ森林を今後更に総合的かつ高度発揮させるため、その機能に応じた適正な森林施設を実施していくことが急務かつ重要である。</p> <p>(事業概要) 森林基幹道開設 剣ヶ岳線 車道幅員 4.00m 開設延長 6,926m 利用区域面積 1,858ha 総事業費 1,547,000千円(当初総事業費 1,620,000千円)</p> | | | | | | | | | | | |
| ① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化 | <p>平成25年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 費用対効果分析手法の見直しによる総便益の減少や、森林整備に要する費用を計上したことにより総費用が増加した。</p> <table> <tr> <td>総便益 (B)</td> <td>2,645,413千円</td> <td>(事業採択時総便益 3,727,836千円)</td> </tr> <tr> <td>総費用 (C)</td> <td>2,420,167千円</td> <td>(事業採択時総費用 1,458,488千円)</td> </tr> <tr> <td>分析結果 (B/C)</td> <td>1.09</td> <td>(事業採択時分析結果 2.55)</td> </tr> </table> | | | 総便益 (B) | 2,645,413千円 | (事業採択時総便益 3,727,836千円) | 総費用 (C) | 2,420,167千円 | (事業採択時総費用 1,458,488千円) | 分析結果 (B/C) | 1.09 | (事業採択時分析結果 2.55) |
| 総便益 (B) | 2,645,413千円 | (事業採択時総便益 3,727,836千円) | | | | | | | | | | |
| 総費用 (C) | 2,420,167千円 | (事業採択時総費用 1,458,488千円) | | | | | | | | | | |
| 分析結果 (B/C) | 1.09 | (事業採択時分析結果 2.55) | | | | | | | | | | |
| ② 事業効果の発現状況 | <p>林道が開設されたことで、森林施業地までの到達時間や市場までの時間短縮が図られることにより搬出コストが低減し、利用区域内における木材搬出量が1,400m³/年から2,100m³/年(1.5倍)に増加した。</p> | | | | | | | | | | | |
| ③ 事業により整備された施設の管理状況 | <p>事業により整備された林道は、あわら市、坂井市により適切に管理され、年数回の草刈、側溝清掃等適切に行われている。</p> | | | | | | | | | | | |
| ④ 事業実施による環境の変化 | <p>林道整備により、作業経費が低減され搬出間伐が進むなど、森林所有者の森林經營に対する意欲が向上したほか、森林施業地までの到達時間の短縮により林業従事者の労働環境の改善が図られた。 また、事業実施以降、支線林道の整備が順次進んでおり、今後もより一層の森林整備、間伐材利用が促進されると考えられる。</p> | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 社会経済情勢の変化 | <p>林道の整備により、林業労働の軽減、高性能林業機械の導入や運搬車両の大型化が可能となり、作業コストの低減化が図られ、林業生産性が向上しつつある。</p> | | | | | | | | | | | |

| | |
|----------|---|
| ⑥ 今後の課題等 | <p>森林基幹道の整備が進んだことで林業生産性が向上しているが、全体計画としては完了していないため、人工林の間伐等の森林施業が十分とはいえない状況である。 今後も引き続き森林基幹道の整備を促進するとともに、作業道の整備についても積極的に推進していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の意見： 基幹道が整備されたことにより、森林所有者や県民の森林に対する関心が高まっている。林道を活用したイベント等を行う事により、所有者に更に森林整備の意欲を持ってもらえるようPRをしていく必要がある。(福井県) これまでに比べ木材生産や森林整備が促進されており、今後とも関係機関と連携して推進を強化していきたい。(あわら市・坂井市) |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 森林施業を効率的に行う基盤となる路網の整備により間伐や枝打ち等の森林整備の推進が見られることから、事業の必要性が認められる。 ・効率性： 現地に応じた工種・工法で計画が作成されるとともに、事業実施にあたっても波形線形の採用による切・盛土量の抑制等コスト縮減に努め、総事業費の縮減を図っていることから、効率性が認められる。 ・有効性： 林道整備により森林へのアクセスが容易となり、作業効率が向上した結果、木材生産・森林整備が促進されていることから、今後も効果の発現が見込まれる。 |

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林居住環境整備事業

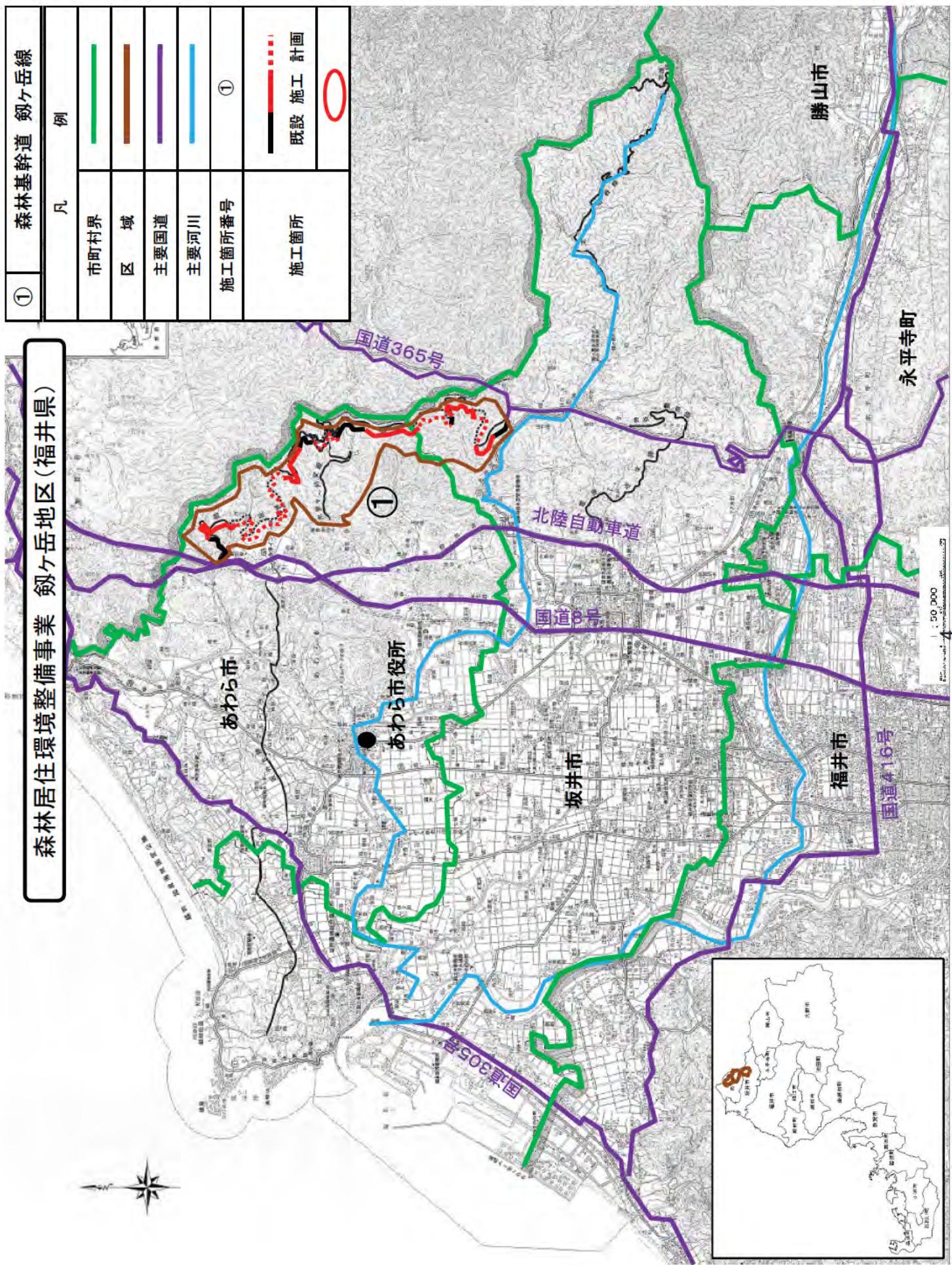
けんがたけ

地域(地区)名: 鳴ヶ岳地区

都道府県名: 福井県

(単位:千円)

| 大区分 | 中区分 | 評価額 | 備考 |
|-------------|---|-----------|----|
| 木材生産等便益 | 木材生産等経費縮減便益 | 306,645 | |
| | 木材生産確保・増進便益 | 889,120 | |
| 森林整備経費縮減等便益 | 造林作業経費縮減便益 | 41,683 | |
| | 森林管理等経費縮減便益 | 17,753 | |
| | 森林整備促進便益 | 1,121,381 | |
| 森林の総合利用便益 | アクセス時間短縮等便益 | 49,959 | |
| | ふれあい機会創出便益 | 218,872 | |
| 総便益 (B) | | 2,645,413 | |
| 総費用 (C) | | 2,420,167 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{2,645,413}{2,420,167} = 1.09$ | | |



完了後の評価個表

整理番号 6-1

| | | | |
|--------|----------------------------|---------|----------|
| 事業名 | 森林居住環境整備事業 | 都道府県 | 福井県 |
| 地区名 | えちぜんなんぶ 越前南部 | 事業実施主体 | 福井県 |
| 関係市町村 | 越前市、南越前町 (旧武生市、今庄町、河野村) | 管理主体 | 越前市、南越前町 |
| 事業実施期間 | H14～H19（6年間） | 完了後経過年数 | 5年 |

| | |
|----------|--|
| 事業の概要・目的 | <p>① 位置等 当地区は、福井県嶺北南西部に位置し、東西約5km、南北約15kmにおよぶ越前市から南越前町までのホノケ山を代表とする山地に囲まれた中山間地である。</p> <p>② 森林の状況 当地区の森林面積は1,923ha全てを民有林が占め、そのうちの約45%、868haがスギを中心とした人工林となっている。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意義 当地区においてはこれまでに868haの人工林が造成され、森林蓄積は着実に増加しているものの、その多くは保育・除伐及び間伐等が必要な段階にある。森林所有者等の森林整備に対する意欲の低下が懸念される中で、森林の有する公益的機能の高度発揮に対する期待が高まっていたところである。 また、当地区には森林整備を効率的に実施するための基幹となる林道等の路網が十分に整備されていなかったことから、森林整備の遅れが目立っていた。 このため、森林の公益的機能の高度発揮等を目的として、整備が必要な森林への到達時間の短縮、労働力や資材の効率的な移動等により林業労働の軽減及び森林施業コストの低減を図り、適切な森林整備を促進することを目的に林道を整備した。</p> <p>(事業概要) 森林基幹道開設 越前南部線 車道幅員 4.00m 開設延長 5,122m 利用区域面積 1,923ha 総事業費 1,584,000千円（当初総事業費 2,027,800千円）</p> |
| | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|------------------------|-------------|------------------------|--------|-------------|------------------------|-----------|------|------------------|
| ① 費用対効果分析の算定基礎となつた要因の変化 | <p>平成25年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 事業計画の見直しによる総事業費の減少や、森林整備に要する費用を計上したことにより総費用が増加した。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">総便益（B）</td><td style="width: 33%;">3,132,862千円</td><td style="width: 33%;">（事業採択時総便益 2,906,210千円）</td></tr> <tr> <td>総費用（C）</td><td>3,031,521千円</td><td>（事業採択時総費用 1,936,707千円）</td></tr> <tr> <td>分析結果（B／C）</td><td>1.03</td><td>（事業採択時分析結果 1.50）</td></tr> </table> | 総便益（B） | 3,132,862千円 | （事業採択時総便益 2,906,210千円） | 総費用（C） | 3,031,521千円 | （事業採択時総費用 1,936,707千円） | 分析結果（B／C） | 1.03 | （事業採択時分析結果 1.50） |
| 総便益（B） | 3,132,862千円 | （事業採択時総便益 2,906,210千円） | | | | | | | | |
| 総費用（C） | 3,031,521千円 | （事業採択時総費用 1,936,707千円） | | | | | | | | |
| 分析結果（B／C） | 1.03 | （事業採択時分析結果 1.50） | | | | | | | | |
| ② 事業効果の発現状況 | 林道が開設されたことで、森林施業地までの到達時間や市場までの時間短縮が図られることにより搬出コストが低減し、利用区域内における木材搬出量が400m ³ /年から1,300m ³ /年（3.3倍）に増加した。 | | | | | | | | | |
| ③ 事業により整備された施設の管理状況 | 事業により整備された林道は、越前市、南越前町が定めた林道規則に基づき管理され、年数回の草刈、側溝清掃等が適切に行われている。 | | | | | | | | | |
| ④ 事業実施による環境の変化 | <p>作業経費が低減され搬出間伐が進むなど、森林所有者の森林経営に対する意欲が向上したほか、森林施業地までの到達時間の短縮により林業従事者の労働環境の改善が図られた。</p> <p>事業実施以降、支線林道の整備が順次進んでおり、今後もより一層の森林整備、間伐材利用が促進されると考えられる。</p> | | | | | | | | | |
| ⑤ 社会経済情勢の変化 | 林道の整備により、林業労働の軽減、高性能林業機械の導入や運搬車両の大型化が可能となり、作業コストの低減化が図られ林業生産性が向上しつつある。 | | | | | | | | | |

| | |
|----------|--|
| ⑥ 今後の課題等 | <p>森林基幹道の整備が進んだことで林業生産性が向上しているが、全体計画としては完了していないため、人工林の間伐等の森林施業が十分とはいえない状況である。今後も引き続き森林基幹道の整備を促進するとともに、作業道の整備についても積極的に推進していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の意見： 森林所有者の森林整備への取組や意欲は改善されつつあるが、木材価格等の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が積極的に行われるようさらなるPR活動をする必要がある。(福井県) <p>所有者の山林に対する意識が徐々に高まっており、地元自治会と協力して引き続き維持管理を行い、森林所有者に積極的に森林整備を働きかけていきたい。(越前市・南越前町)</p> |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 森林施業を効率的に行う基盤となる路網の整備により間伐や枝打ち等の森林整備の推進が見られることから、事業の必要性が認められる。 ・効率性： 現地に応じた工種・工法で計画が作成されるとともに、事業実施にあたっても波形線形の採用による切・盛土量の抑制等コスト縮減に努め、総事業費の縮減を図っていることから、効率性が認められる。 ・有効性： 林道整備により森林へのアクセスが容易となり、作業効率が向上した結果、木材生産・森林整備が促進されていることから、今後も効果の発現が見込まれる。 |

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林居住環境整備事業

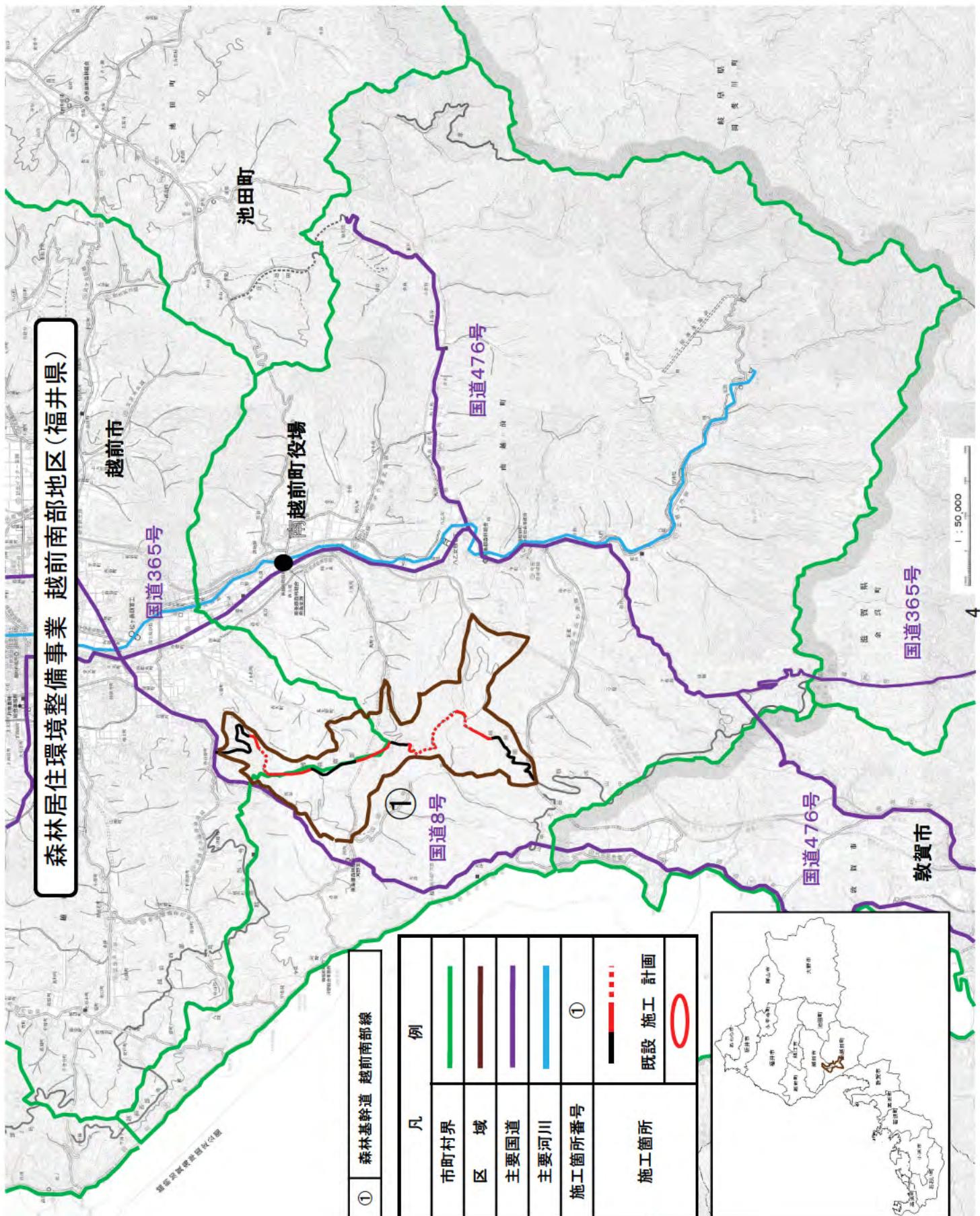
都道府県名: 福井県

地域(地区)名: 越前南部

(単位: 千円)

| 大区分 | 中区分 | 評価額 | 備考 |
|-------------|---|-----------|----|
| 木材生産等便益 | 木材生産等経費縮減便益 | 185,831 | |
| | 木材生産確保・増進便益 | 957,702 | |
| 森林整備経費縮減等便益 | 造林作業経費縮減便益 | 79,469 | |
| | 森林管理等経費縮減便益 | 16,210 | |
| | 森林整備促進便益 | 1,615,932 | |
| 森林の総合利用便益 | ふれあい機会創出便益 | 277,718 | |
| 総便益 (B) | | 3,132,862 | |
| 総費用 (C) | | 3,031,521 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{3,132,862}{3,031,521} = 1.03$ | | |

森林居住環境整備事業 越前南部地区(福井県)



完了後の評価個表

整理番号 7-1

| | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|------------------------|------------|--------|-------------|------------------------|--------|-------------|----------------------|-----------|------|------------------|
| 事業名 ふりがな 地名 | 森林居住環境整備事業 わかさおにゅう 若狭遠敷 | 都道府県 事業実施主体 | 福井県 福井県 | | | | | | | | | |
| 関係市町村 | おおい町(旧名田庄村)、小浜市 | 管理主体 | おおい町、小浜市 | | | | | | | | | |
| 事業実施期間 | H14～H19(6年間) | 完了後経過年数 | 5年 | | | | | | | | | |
| 事業の概要・目的 | <p>① 位置等 当地区は福井県の西南端に位置し、北は小浜湾(日本海)、南は滋賀県に隣接している。南は東西に走る一連の山岳地帯で、主要河川は北川が西流しているほか、南川が北東流しそれぞれ小浜湾に注ぎ込んでいる。北川および南川沿いは比較的広範囲に平坦地(小浜平野)が開けている。</p> <p>② 森林の状況 当地区の森林面積は1,574haで、うち人工林は859ha(55%)となっている。また、地区内の森林のうち、602haが水源かん養保安林に指定されており、森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるための森林整備の実施が期待されている。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意義 当地区においてはこれまでに859haの人工林が造成され、森林蓄積は着実に増加しているものの、その多くは保育・除伐及び間伐等が必要な段階にある。 しかしながら、担い手不足等の課題の解消は容易に進んでおらず、森林所有者等の森林整備に対する意欲の低下が懸念される中で、基幹となる林道等の路網が十分に整備されていなかったことから、森林整備の遅れが目立っていた。 このため、森林の公益的機能の高度発揮等を目的として、整備が必要な森林への到達時間の短縮、労働力や資材の効率的な移動等により林業労働の軽減及び森林施業コストの低減を図り、適切な森林整備を促進することを目的に林道を整備した。</p> <p>(事業概要) 森林基幹道開設 若狭遠敷線 車道幅員 4.00m 開設延長 4,045m 利用区域面積 1,574ha 総事業費 1,236,000千円(当初総事業費 1,010,000千円)</p> | | | | | | | | | | | |
| ① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化 | <p>平成25年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 事業効果の早期発現のため、計画変更を行い重点投資したことと、森林整備に要する費用を計上したことにより総費用が増額となった。</p> <table> <tbody> <tr> <td>総便益(B)</td> <td>2,233,522千円</td> <td>(事業採択時総便益 2,129,750千円)</td> </tr> <tr> <td>総費用(C)</td> <td>1,967,838千円</td> <td>(事業採択時総費用 887,821千円)</td> </tr> <tr> <td>分析結果(B/C)</td> <td>1.14</td> <td>(事業採択時分析結果 2.40)</td> </tr> </tbody> </table> | | | 総便益(B) | 2,233,522千円 | (事業採択時総便益 2,129,750千円) | 総費用(C) | 1,967,838千円 | (事業採択時総費用 887,821千円) | 分析結果(B/C) | 1.14 | (事業採択時分析結果 2.40) |
| 総便益(B) | 2,233,522千円 | (事業採択時総便益 2,129,750千円) | | | | | | | | | | |
| 総費用(C) | 1,967,838千円 | (事業採択時総費用 887,821千円) | | | | | | | | | | |
| 分析結果(B/C) | 1.14 | (事業採択時分析結果 2.40) | | | | | | | | | | |
| ② 事業効果の発現状況 | <p>林道が開設されたことで、森林施業地までの到達時間や市場までの時間短縮が図られたことにより搬出コストが低減し、利用区域内における木材搬出量が250m³/年から1,100m³/年(4.4倍)に増加した。</p> | | | | | | | | | | | |
| ③ 事業により整備された施設の管理状況 | <p>林道は、小浜市、おおい町により適切に管理され、年数回の草刈、側溝清掃、路面の整正等が行われ良好な維持管理状況にある。</p> | | | | | | | | | | | |
| ④ 事業実施による環境の変化 | <p>林道が整備されたことで、森林施業地までの到達時間の短縮等により林業労働者の労働条件の改善や作業コストが低減され、搬出間伐が促進されるなど、森林所有者の森林経営に対する意欲が向上している。 なお、林道整備による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p> | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 社会経済情勢の変化 | <p>高性能林業機械の搬入や運搬車両の大型化が可能となり、労働強度の軽減や作業コストの低減が図られ、林業生産性が向上しつつある。</p> | | | | | | | | | | | |

| | |
|----------|---|
| ⑥ 今後の課題等 | <p>森林施業の実施に対する意欲が徐々に改善されているが、木材価格の低迷等により間伐等の実施状況は未だ十分とは言えないことから、今後、林道、林業専用道、森林作業道等の路網の整備や施業の集約化および高性能林業機械の導入等により、効率的かつ低成本な施業を推進し、林業生産性を向上させる必要がある。</p> <p>また、事業により整備された施設については、引き続き適切な維持管理を行っていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の意見： 全体計画としては完了していないため、今後も引き続き整備を促進するとともに、必要な間伐等が積極的に行われるようさらなるPR活動をする必要がある。(福井県) <p>地域の森林施業も進み、また両市町を結ぶ骨格的な林道として全線開通の要望が強いため、事業の継続を強く要望する。(おおい町・小浜市)</p> |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 森林施業を効率的に行う基盤となる路網の整備が求められていることから、事業の必要性が認められる。 ・効率性： 現地に応じた工種・工法で計画が作成されるとともに、事業実施にあたっても波形線形の採用による切・盛土量の抑制等コスト縮減に努め、総事業費の縮減に努めていることから、効率性が認められる。 ・有効性： 林道整備により森林へのアクセスが容易となり、作業効率が向上した結果、木材生産・森林整備が促進されていることから、今後も効果の発現が見込まれ、事業の有効性が認められる。 |

整理番号

7

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林居住環境整備事業

わかさおにゅ

地域(地区)名: 若狭遠敷地区

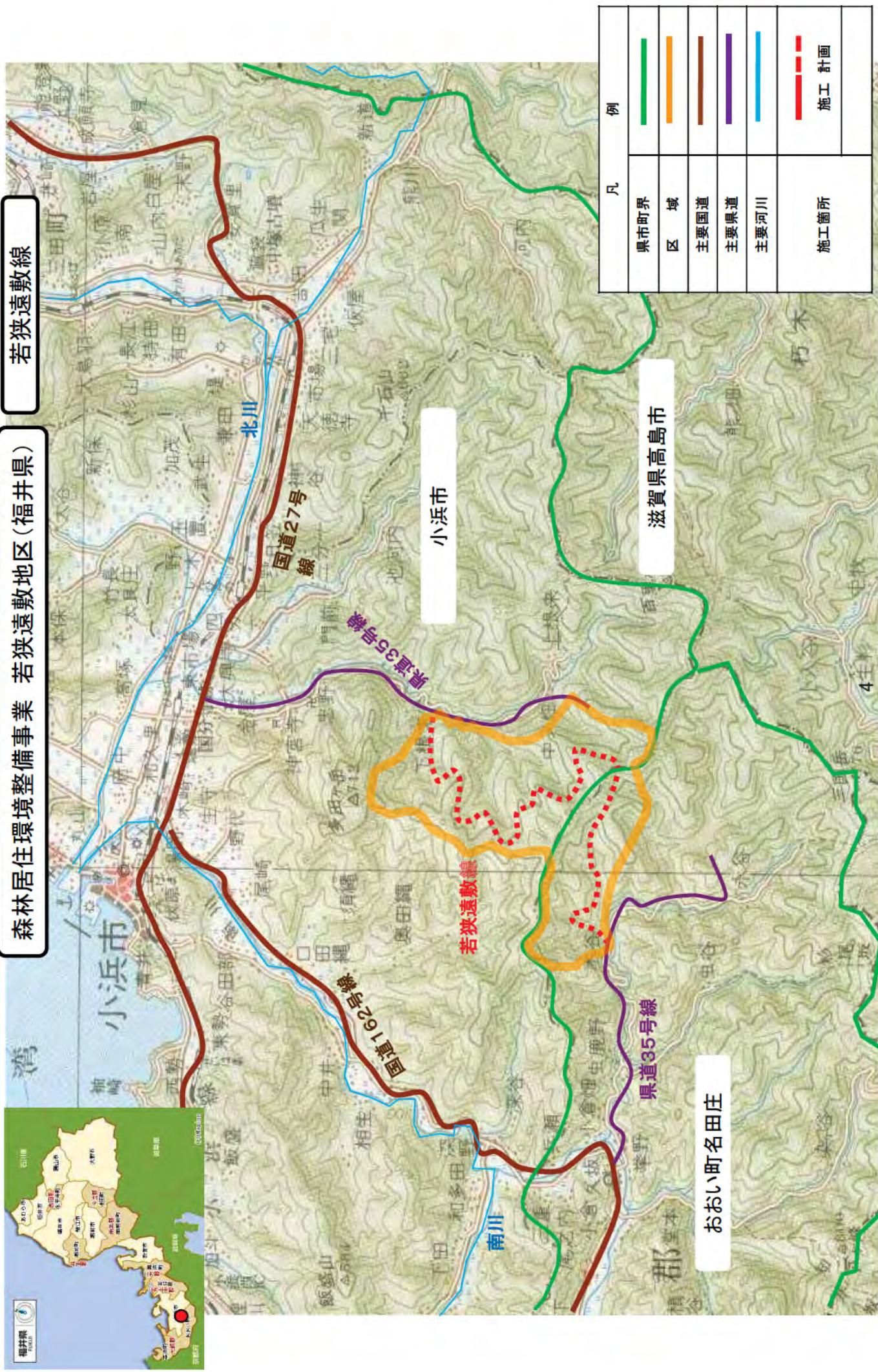
都道府県名: 福井県

(単位: 千円)

| 大区分 | 中区分 | 評価額 | 備考 |
|-------------|---|-----------|----|
| 木材生産等便益 | 木材生産等経費縮減便益 | 53,708 | |
| | 木材生産確保・増進便益 | 866,930 | |
| 森林整備経費縮減等便益 | 造林作業経費縮減便益 | 17,791 | |
| | 森林管理等経費縮減便益 | 14,337 | |
| | 森林整備促進便益 | 1,280,756 | |
| 総便益 (B) | | 2,233,522 | |
| 総費用 (C) | | 1,967,838 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{2,233,522}{1,967,838} = 1.14$ | | |

森林居住環境整備事業 若狭遠敷地区(福井県)

若狹遠敷線



完了後の評価個表

整理番号 8-1

| | | | |
|---------|-----------------|---------|-----|
| 事業名 | 森林居住環境整備事業 | 都道府県 | 山梨県 |
| 地域(地区)名 | 峡東北部 | 事業実施主体 | 山梨県 |
| 関係市町村 | 山梨市 | 管理主体 | 山梨県 |
| 事業実施期間 | H14 ~ H19 (6年間) | 完了後経過年数 | 5年 |

| | |
|-------------------------|--|
| 事業の概要・目的 | <p>① 位置等 当地区的面積は28,987haであり、甲府盆地の東部に位置する。当地区的北部は甲武信岳や国師ヶ岳を中心とする山岳・丘陵地帯で、その南部には富士川水系一級河川笛吹川が流れている。</p> <p>② 森林の状況 当地区的森林面積は23,602haで地区の81%を占めている。内訳は、人工林が11,579haで49%を占め、間伐等の森林整備が必要となる3齢級(15年生)から8齢級(40年生)の森林が3,673haで約15%を占めている。 また、地区内の森林のうち、水源かん養保安林が11,785ha、土砂流出防備保安林が587haに指定されており、森林の持つ水源かん養機能等の公益的機能を高度に発揮させるための森林整備の実施が期待されている。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意義 当地区的人工林は、7齢級(35年生)以下の幼齢林が42%と多くを占め、今後、保育、間伐を適正に実施していくことが重要であり、水源涵養機能及び木材生産機能の充実を図るための適切な森林整備が求められている。 しかしながら、当地区内には森林整備の基盤となる林道が未整備箇所が多く、森林整備の推進に支障を来たしていたため、林業生産基盤の整備や森林の公益的機能の高度発揮等を目的として、森林基幹道の開設を行ったものである。 また、本路線の開設により北原地区、杣口地区、徳和地区、上釜口地区が最短なルートで結ばれ、地域間交通の利便性の向上や、災害時の迂回路としての活用を含め、山村地域の振興、活性化に寄与する。</p> <p>(事業概要)</p> <p>森林基幹道整備 ① 塩平徳和線 車道幅員 4.00m 開設延長 2,241m 利用区域面積 1,334ha ② 乾徳山線 車道幅員 3.00m 開設延長 2,276m 利用区域面積 1,237ha</p> <p>総事業費 1,303,400千円 (当初総事業費 1,638,000千円)</p> |
| ① 費用対効果分析の算定基礎となつた要因の変化 | <p>平成25年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 費用対効果分析手法の見直しによる総便益の減少や、森林整備に要する費用を計上したことにより総費用が増加した。</p> <p>総便益 (B) 2,707,050千円 (事業採択時 5,787,640千円) 総費用 (C) 2,322,505千円 (事業採択時 1,905,364千円) 分析結果 (B/C) 1.17 (事業採択時 3.04)</p> |

| | |
|---------------------|--|
| ② 事業効果の発現状況 | <p>① 林道開設により、効率的な森林整備が可能となる路網から200m以内の森林面積が180ha増加し、森林施業地への到達時間の短縮及び施業コストの低減が図られた。 ② 乾徳山、小檜山といった、眺望が素晴らしい山々があり、手軽に首都圏から訪れる登山者の多い所であった。林道が整備されたことにより、登山道アクセスの向上や救急時の搬送時間短縮等により、大きな役割を果たしている。</p> |
| ③ 事業により整備された施設の管理状況 | <p>当事業により開設された林道は、山梨県及び市が定めた林道維持管理要綱に基づき管理されている。 また、草刈や側溝掃除等が毎年行われており、維持管理状況は良好である。</p> |
| ④ 事業実施による環境の変化 | <p>当事業により整備された林道の利用区域内の森林は、間伐を主体とした森林整備が効果的に実施されており、健全な森林が育成されている。 また、林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p> |

| | |
|-------------|--|
| ⑤ 社会経済情勢の変化 | <p>林業労働の軽減、森林施業コストの低減が図られ、森林施業の実施面積が開設前と比べ増加してきたことから、将来の木材供給源としての期待がより一層高まっている。森林整備が行われる一方、首都圏から近いことで、本林道を通じて山菜採取やハイキング等に森林を利用する観光者が増加し、森林に対する理解が深まりつつある。</p> |
| ⑥ 今後の課題等 | <p>森林整備を効率的に行うための基盤整備がなされ、森林所有者の林業に対する意識向上が見られ、林道沿線から優先して積極的に作業が行われている。今後は作業道等の整備を精力的に進めて行くことが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の意見： 林道が整備されたことにより、森林へのアクセスが改善されたため、適切な森林整備が実施され、水源の涵養や山地災害防止等の公益的機能が増進されるとともに木材の安定供給に寄与している。（山梨県） <p>当該林道が全線開通することにより森林整備が促進され、公益的機能の向上や林業経営の健全化が期待されるとともに、山村地域の活性化にも重要な役割をはたすものとして事業の促進を強く要望する。</p> <p>また、これまでの本林道の開設により、地域林業の組織化、経営近代化施設の利用が推し進められたことで林業従業者の意欲が向上し、山村地域の振興に寄与している。（山梨市）</p> |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 地元の意見にも見られるとおり、林道の整備による適切な森林整備の実施、水源かん養機能等の公益的機能の発揮や、山村と都市との共生・交流を図ることができる施設整備が求められていたことから、事業の必要性が認められる。 ・効率性： 林道の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で実施しており、事業実施に当たってもコスト縮減に努め総事業費の削減が図られたことから、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 林道整備により、森林へのアクセスが容易になり、森林整備を実施するコストも縮減されることから、今後も事業効果の発現が見込まれていること。 林道が災害時の迂回路としても機能していること。 森林整備により、森林の景観が向上してきていること。 以上のことから、事業の有効性が認められる。 |

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林居住環境整備事業

都道府県名: 山梨県

地域(地区)名: 峠東北部

(単位: 千円)

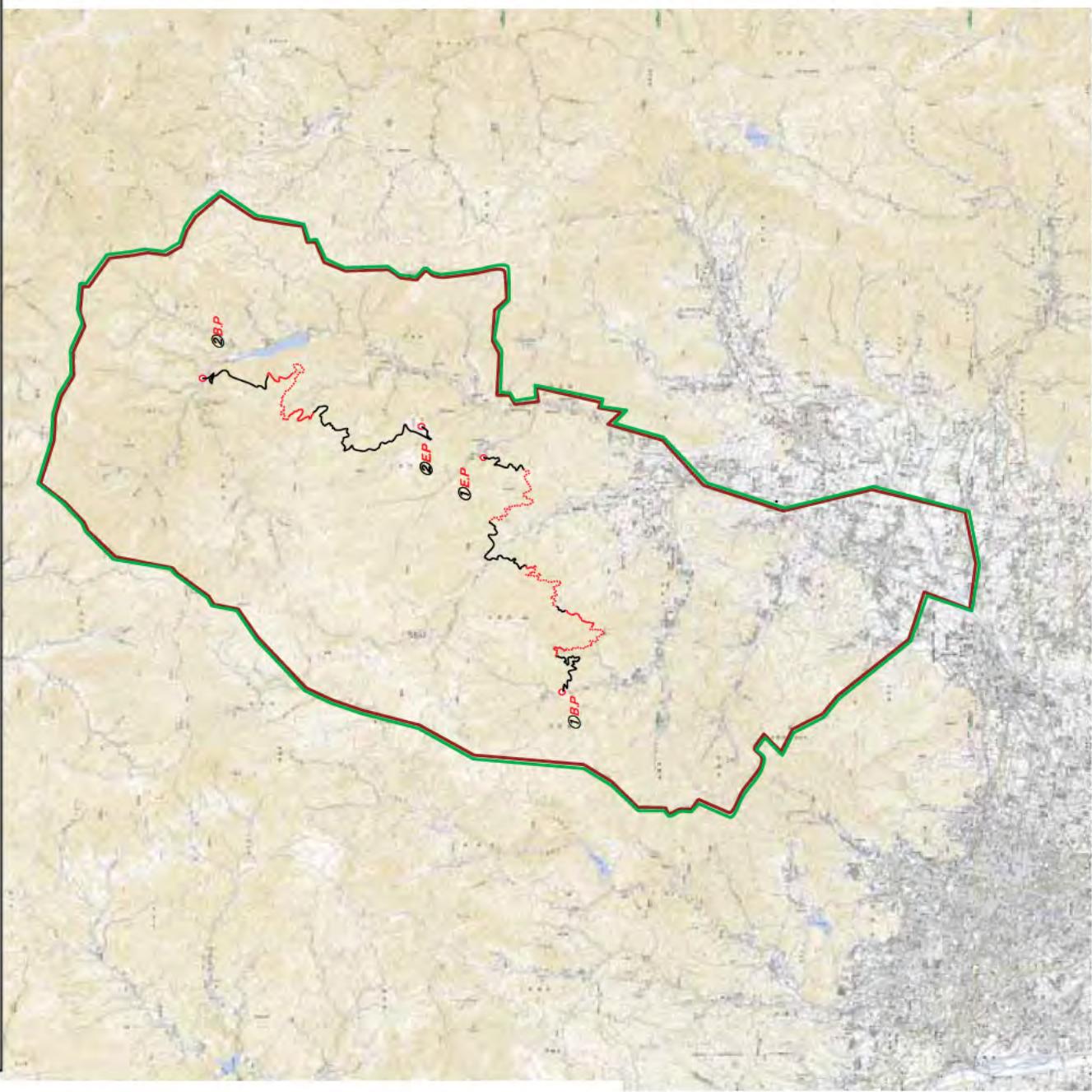
| 大区分 | 中区分 | 評価額 | 備考 |
|-------------|---|-----------|----|
| 木材生産等便益 | 木材生産等経費縮減便益 | 2,245 | |
| | 木材利用増進便益 | 650 | |
| | 木材生産確保・増進便益 | 96,501 | |
| 森林整備経費縮減等便益 | 造林作業経費縮減便益 | 427 | |
| | 治山経費縮減便益 | 1,951,141 | |
| | 森林管理等経費縮減便益 | 3,257 | |
| | 森林整備促進便益 | 652,829 | |
| 総便益 (B) | | 2,707,050 | |
| 総費用 (C) | | 2,322,505 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{2,707,050}{2,322,505} = 1.17$ | | |

森林居住環境整備事業 峠東北部 概要図



| 凡例 | |
|--------|---|
| 区域 | ○ |
| 作田村界 | ○ |
| 施工箇所番号 | ① |
| 既設箇所 | — |
| 施工箇所 | — |
| 計画箇所 | — |

| 事業名 | 路線名 |
|---------------|-------|
| ① 森林基幹道整備(開設) | 塙平薄和線 |
| ② // | 勢蓮山線 |



完了後の評価個表

整理番号 9-1

| | | | | | |
|-------------------------|---|--|---------|--|--|
| 事業名 | 森林居住環境整備事業 | 都道府県 | 山梨県 | | |
| 地域(地区)名 | 峠南南部 <small>きょうなんなんぶ</small> | 事業実施主体 | 山梨県 | | |
| 関係市町村 | 身延町、南部町 | 管理主体 | 身延町、南部町 | | |
| 事業実施期間 | H14～H19 (6年間) | 完了後経過年数 | 6年 | | |
| 事業の概要・目的 | | <p>① 位置等 本地区は、甲府盆地の南、山梨県の南部に位置している。地区のほぼ中央を富士川が南流しており、北は御坂山系の南端にあたり、東は本栖湖を経て静岡県富士宮市に接し西は身延山を経て静岡市に接する、総面積50,263haの地区である。標高は70mから1,989mの間にあり、平均気温は14.6°Cで降水量は2,470mmと比較的多い地帯である。</p> <p>② 森林の状況 本地区的森林面積は42,007haで、総面積の83.5%を占めている。内訳は、民有林面積29,845ha、県有林9,638ha、国有林2,524haであり、人工林率は約52%である。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意義 当地区的人工林は、8齢級(40年生)以上の林分も多く分布するなど、森林の蓄積は着実に増加し、その多くは水源の涵養や土砂の流出防備、木材の生産機能の充実を図るための森林整備が求められている。ただ、長引く木材価格の低迷から森林所有者の森林整備に対する意欲の低いことや、森林整備を効率的に実施するための基幹的な林道等の路網が十分でなかったこともあり、適切な森林施業への遅れが目立っていた。 このため、森林の公益的機能の高度発揮を目的として、森林施業が必要な森林への到達時間の短縮、労働力や資材の効率的な移動等により林業労働の軽減及び森林施業コストの低減を図り、適切な森林整備を促進することを目的に、身延町(旧下部町)廻沢地区をはじめとする身延町内の4つの地区と南部町八木沢地区を連絡する線形で林道を整備した。</p> <p>(事業概要) 森林基幹道整備</p> <p>① 三石山線 車道幅員 4.0m 開設延長 10,065m 利用区域面積 3,710ha ② 栃代釜額線 車道幅員 3.0m 開設延長 639m 利用区域面積 580ha 総事業費 3,325,000千円 (当初総事業費 2,954,000千円)</p> | | | |
| ① 費用対効果分析の算定基礎となつた要因の変化 | <p>平成25年時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 森林基幹道整備において、早期完成を図るために、計画期間内の事業費を増額したことや、森林整備に要する費用を計上したことにより総費用が増加した。</p> <p>総便益 (B) 9,555,640千円 (事業採択時総便益 8,622,989千円) 総費用 (C) 6,018,672千円 (事業採択時総費用 3,274,710千円) 分析結果 (B/C) 1.59 (事業採択時分析結果 2.63)</p> | | | | |
| ② 事業効果の発現状況 | <p>① 林道により施業地へのアクセスが容易になり、林業従事者の労働条件の改善が図られ、森林所有者の林業経営に対する意欲が向上している。 ② 人工林に対する間伐等の実施が進んでいる。 ③ 台風発生時において、町道の通行止時の迂回路として林道が利用され、住民の生活環境が確保された。 ④ 集落間林道の整備により山村集落住民の生活の利便性が向上した。</p> | | | | |
| ③ 事業により整備された施設の管理状況 | <p>当事業により整備された林道は、身延町が定めた管理条例に基づき適切に管理されている。 また、側溝清掃や草刈等の作業は毎年行われており、維持管理状況は良好である。</p> | | | | |
| ④ 事業実施による環境の変化 | <p>林道整備により、施業地までの到達時間の短縮等により林業従事者の労働条件の改善や作業コストが低減され、森林所有者の森林整備に対する意欲が向上し、効果的な森林整備が実施されており、健全な森林が育成されている。 林道整備による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p> | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| <p>⑤ 社会経済情勢の変化</p> | <p>林道が整備されたことにより、高性能林業機械や大型の運搬車両の乗り入れが可能となり、労働条件の改善や作業コストの低減が図られ、より一層の森林整備の促進が期待されている。</p> |
| <p>⑥ 今後の課題等</p> | <p>森林所有者の森林整備の取り組みや林業経営意欲も除々にではあるが改善されてきている。しかし、木材価格の低迷により、必要な間伐等の整備が十分とはいえない状況である。</p> <p>今後も当該林道の整備により、施業の集約化や高性能林業機械の利用を進め、効率的かつ低コストな施業の推進を図る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の意見： 林道が整備されたことにより、森林へのアクセスが改善されたため、適切な森林整備が実施され、水源の涵養や山地災害防止等の公益的機能が増進されるとともに木材の安定供給に寄与している。（山梨県） <p>林道整備により森林整備が促進され、また通行の安全や地域生活の安定が確保されている。（身延町）</p> |
| <p>評価結果</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 森林整備を効率的に行うための基盤となる林道等路網整備や森林施業による水源の涵養や山地防災等公益的機能の高度発揮が求められている。また、当地区は山間奥地にあり、集落は急峻な山間斜面に点在している。このことからインフラ整備が遅れた地域遊民の生活基盤の整備が求められており、必要性が認められる。 ・効率性： 林道計画に当たっては、現地の応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で実施しており、事業実施に当たってもコスト縮減が図られたことから、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 林道が整備されたことにより、森林へのアクセスが容易となり、労働条件の向上・作業コストの縮減が図られ、より一層の森林整備の促進がされており、今後も効果の発現が見込まれる。また、山間集落を連絡するルートであり災害時の迂回路として機能していることから、事業の有効性が認められる。 |

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林居住環境整備事業

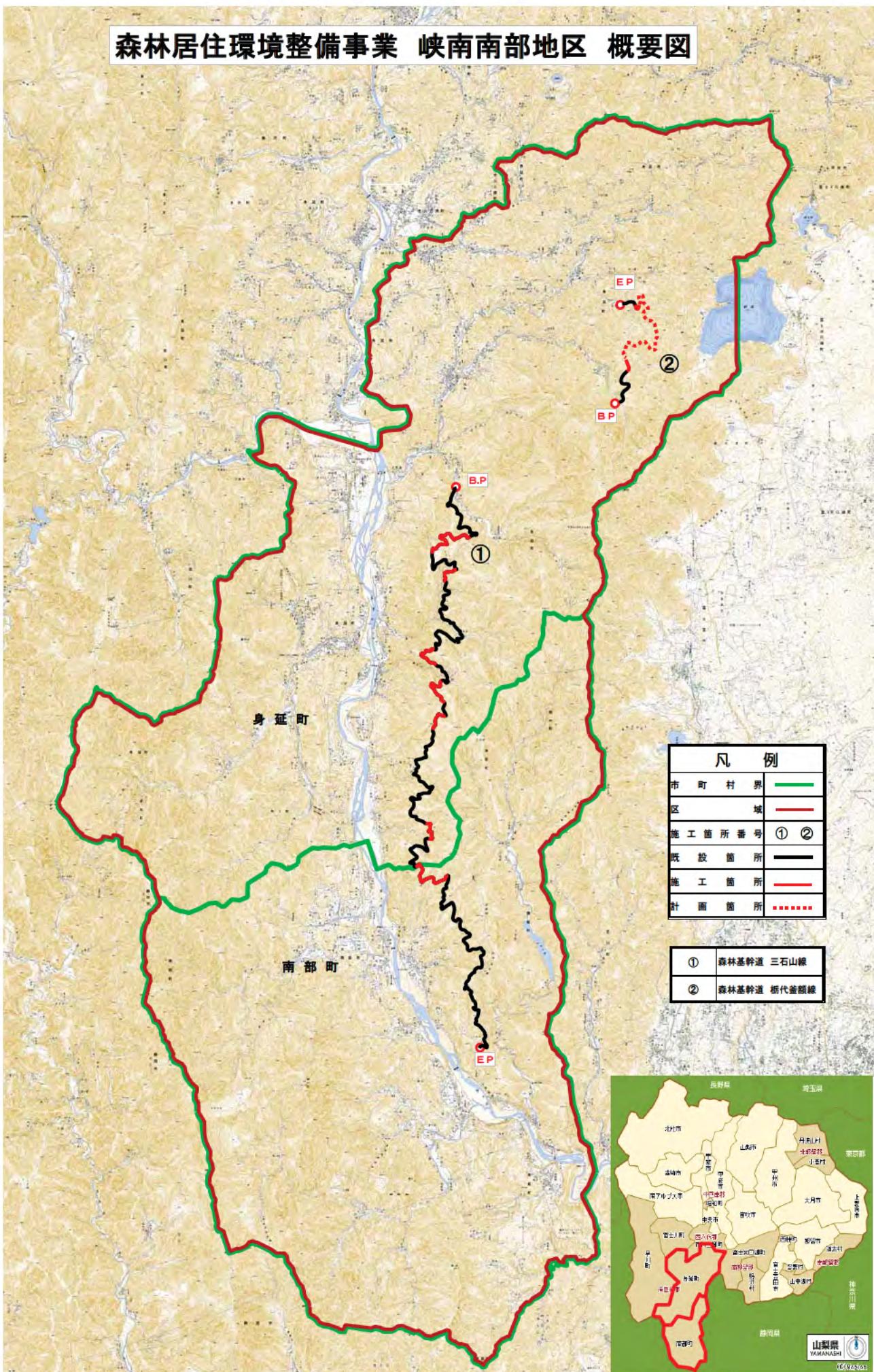
都道府県名: 山梨県

地域(地区)名: 峠南南部

(単位:千円)

| 大区分 | 中区分 | 評価額 | 備考 |
|-------------|---|-----------|----|
| 木材生産等便益 | 木材生産等経費縮減便益 | 237,953 | |
| | 木材利用増進便益 | 289,551 | |
| | 木材生産確保・増進便益 | 818,923 | |
| 森林整備経費縮減等便益 | 造林作業経費縮減便益 | 10,697 | |
| | 治山経費縮減便益 | 5,620,648 | |
| | 森林管理等経費縮減便益 | 75,418 | |
| | 森林整備促進便益 | 2,502,450 | |
| 総便益 (B) | | 9,555,640 | |
| 総費用 (C) | | 6,018,672 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{9,555,640}{6,018,672} = 1.59$ | | |

森林居住環境整備事業 峡南南部地区 概要図



完了後の評価個表

整理番号 10-1

| | | | |
|-----------------|-------------------------|---------|----------|
| 事業名 | 森林居住環境整備事業 | 都道府県 | 山梨県 |
| ふりがな 地域(地区)名 | おおつきとうぶ 大月東部 | 事業実施主体 | 山梨県 |
| 関係市町村 | 上野原市(旧上野原町、旧秋山村) 道志村 | 管理主体 | 上野原市、道志村 |
| 事業実施期間 | H14 ~ H19 (6年間) | 完了後経過年数 | 5年 |

| | |
|----------|--|
| 事業の概要・目的 | ① 位置等 大月東部地区は、山梨県の東部に位置し、西側の東京都境となる三頭山から神奈川県の大室山へ南に走る稲線と相模湾に注ぐ相模川水系一級河川桂川と秋山川、道志川が東から西に貫流している。南側は道志村、北側は上野原市からなる、良好な県有数の林業地帯である。 |
| | ② 森林の状況 当地区的森林面積は21,438ha(地区の86%)で、そのうち人工林が11,306haで53%を占めており、間伐等の森林整備が必要となる3齢級(15年生)から8齢級(40年生)の森林が3,534haで約16%を占めている。 また、地区内の森林のうち、水源かん養保安林が5,932ha、土砂流出防備保安林が901haに指定されており、森林の持つ水源かん養機能等の公益的機能を高度に発揮させるための森林整備の実施が期待されている。 |
| | ③ 当地区を整備する目的・意義 当地区的人工林は、10齢級(50年生)を中心とする林分に分布が集中しており、水源涵養機能はもとより、木材生産機能の充実を図るために適切な森林整備が求められている。 しかしながら、当地区内には森林整備の基盤となる林道が未整備箇所が多く、森林整備の推進に支障を来たしていたため、林業生産基盤の整備や森林の公益的機能の高度発揮等を目的として、森林基幹道の開設を行ったものである。 また、本路線の開設により上野原市、道志村が最短なルートで結ばれ、地域間交通の利便性の向上や、災害時の迂回路としての活用を含め、山村地域の振興、活性化に寄与する。 |
| | (事業概要) 森林基幹道整備 ① 富士東部(北)線 車道幅員 4.00m 開設延長 852m 利用区域面積 252ha ② 富士東部(南)線 車道幅員 4.00m 開設延長 2,484m 利用区域面積 1,285ha 総事業費 1,138,000千円 (当初総事業費 1,070,000千円) |
| | ① 費用対効果分析の算定基礎となつた要因の変化 平成25年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 費用対効果分析手法の見直しによる総便益の減少や、森林整備に要する費用を計上したことにより総費用が増加した。 総便益(B) 2,712,761千円 (事業採択時総便益 6,797,061千円) 総費用(C) 2,022,094千円 (事業採択時総費用 1,465,522千円) 分析結果(B/C) 1.34 (事業採択時分析結果 4.64) |
| | ② 事業効果の発現状況 ① 林道開設により、各路線の利用区域内における、森林施業地への到達時間の短縮及び施業コストの低減が図られ、これまでに総利用区域面積1,537haに対し、整備前の森林整備等の状況は5年間で224haに止まっていたが、整備後は主間伐93ha、その他保育166haなど259haの森林整備等が実施されるなど、適切な森林整備に大きな役割を果たしている。 ② 利用区域内に横浜市水源林の一部があり、林道が整備されたことにより、これまで奥地の水源林箇所へのアクセスが容易になり、森林管理のコスト縮減や水源林学習教育の場として利用できるようになった。 |
| | ③ 事業により整備された施設の管理状況 当事業により開設された林道は、上野原市、道志村が定めた林道維持管理要綱に基づき管理されている。 また、地元住民による年2回の草刈や側溝掃除等が行われており、維持管理状況はおおむね良好である。 |

| | |
|----------------|--|
| ④ 事業実施による環境の変化 | <p>森林組合等による伐採や植栽、除伐・間伐等の実施面積が開設前と比べ15%増加するなど、森林施業の実施に対する意欲が向上してきている。林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p> |
| ⑤ 社会経済情勢の変化 | <p>林業労働の軽減、森林施業コストの低減が図られ、森林施業の実施面積が開設前と比べ増加してきたことから、将来の木材供給源としての期待がより一層高まっている。森林整備が行われる一方、首都圏から近いことで、本林道を通じて山菜採取やハイキング等に森林を利用する観光者が増加し、森林に対する理解が深まりつつある。</p> |
| ⑥ 今後の課題等 | <p>森林整備を効率的に行うための基盤整備がなされ、森林所有者の林業に対する意識向上が見られ、林道沿線から優先して積極的に作業が行われている。今後は作業道等の整備を精力的に進めて行くことが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の意見：林道が整備されたことにより、森林へのアクセスが改善されたため、適切な森林整備が実施され、水源の涵養や山地災害防止等の公益的機能が増進されるとともに木材の安定供給に寄与している。（山梨県） 林道の整備を行ったことで、水源林管理関係者の通勤時間の短縮、更には水源林学習教育の場として利便性の向上に寄与している。 (道志村・横浜市) |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要性：地元の意見にも見られるとおり、林道の整備による適切な森林整備の実施、水源かん養機能等の公益的機能の発揮や、山村と都市との共生・交流を図ることができる施設整備が求められていたことから、事業の必要性が認められる。 ・効率性：林道の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で実施しており、事業実施に当たってもコスト縮減が図られたことから、事業の効率性が認められる。 ・有効性：林道整備により、森林へのアクセスが容易になり、森林整備を実施するコストも縮減されることから、今後も事業効果の発現が見込まれていること。 林道が災害時の迂回路としても機能していること。 森林整備により、森林の景観が向上してきていること。 以上のことから、事業の有効性が認められる。 |

便 益 集 計 表

事業名:森林居住環境整備事業

都道府県名:山梨県

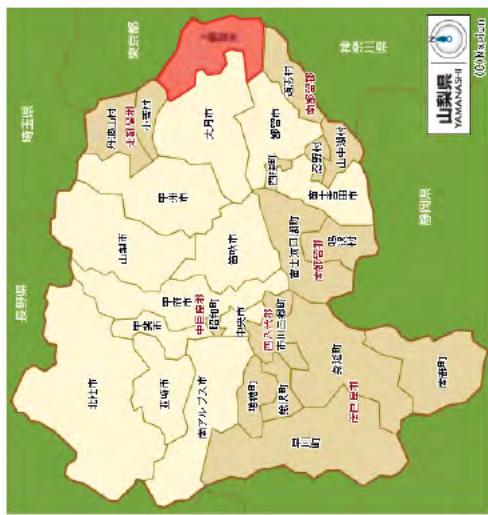
地域(地区)名:大月東部

(単位:千円)

| 大区分 | 中区分 | 評価額 | 備考 |
|-------------|---|-----------|----|
| 木材生産等便益 | 木材生産等経費縮減便益 | 2,609 | |
| | 木材利用増進便益 | 1,959 | |
| | 木材生産確保・増進便益 | 110,654 | |
| 森林整備経費縮減等便益 | 造林作業経費縮減便益 | 6,752 | |
| | 治山経費縮減便益 | 1,716,725 | |
| | 森林管理等経費縮減便益 | 15,120 | |
| | 森林整備促進便益 | 858,942 | |
| 総便益 (B) | | 2,712,761 | |
| 総費用 (C) | | 2,022,094 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{2,712,761}{2,022,094} = 1.34$ | | |

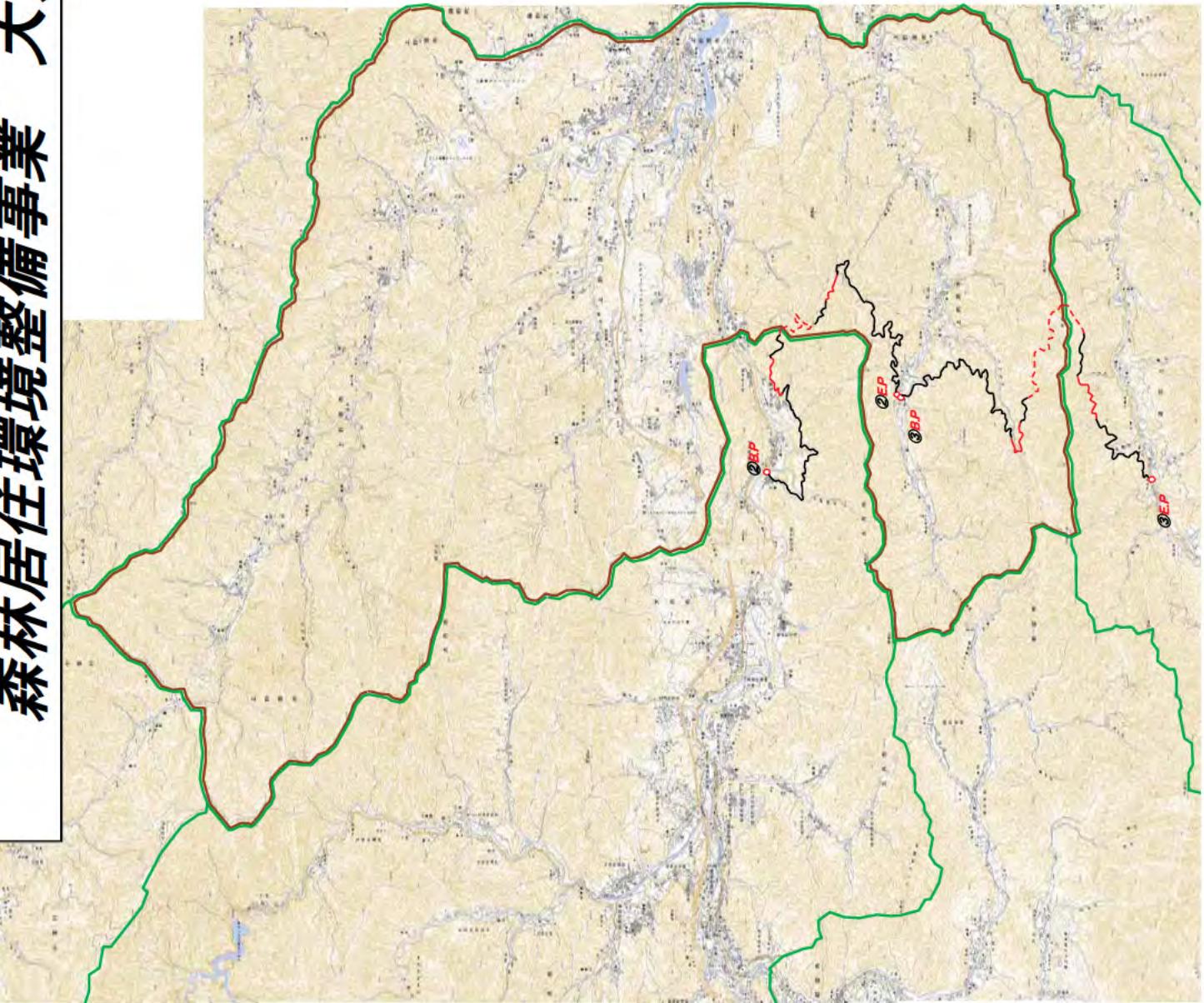
森林居住環境整備事業 大月東部地区 概要図

森林居住環境整備事業 大月東部地区 概要図



| ① | 全 体 計 画 調 査 大 月 東 部 地 区 |
|---|---------------------------|
| ② | 森林基幹道路脇(開設) 富士東部北線(上野原工区) |
| ③ | II 富士東部(南)線(秋山工区) |

| 凡 例 | |
|--------|---|
| 区 域 | ○ |
| 市町村界 | ○ |
| 施工箇所番号 | ① |
| 施工箇所 | — |



完了後の評価個表

整理番号 11-1

| | | | |
|---------|--|---------|--|
| 事業名 | 森林居住環境整備事業 | 都道府県 | 山梨県 |
| 地域(地区)名 | 甲斐西部 | 事業実施主体 | 山梨県 |
| 関係市町村 | 南アルプス市(旧白根町、旧芦安村、旧櫛形町)、富士川町(旧増穂町、旧鍬沢町)、早川町 | 管理主体 | 山梨県、南アルプス市(旧白根町、旧芦安村、旧櫛形町)、富士川町(旧増穂町、旧鍬沢町)、早川町 |
| 事業実施期間 | H14~H19 (6年間) | 完了後経過年数 | 5年 |

| | |
|---|---|
| 事業の概要・目的 | ① 位置等 当地区の面積は71,126haであり、県土面積の約20%を占める県西部一帯の地域であり、南アルプスの前衛櫛形山から、南アルプスの稜線を境に静岡県と接する広大な地域である。標高は、250m~3,000mと大きな標高差があり、一般的には典型的な内陸性気候である。なお、当地域は、近年特に森林レクリエーションの場として首都圏等から注目されている地域もある。 |
| | ② 森林の状況 当地区の森林面積は63,700haで総面積の約90%を占めている。内訳は民有林面積25,424ha、県有林面積38,276ha、であり、総蓄積は、9,589,017m ³ で、針葉樹6,193,941m ³ 、広葉樹3,395,076m ³ である。保安林面積は43,768haで、当地区森林面積の69%となっている。 なお、人工林面積は19,197haであり、人工林率は30%となっている。樹種別内訳はカラマツが全体の45%、ヒノキが全体の30%を占めている。人工林の齢級構成は1~8齢級が全体の66%を占めている状況である。 |
| ③ 当地区を整備する目的・意義 当地区においてはこれまでに19,197haの人工林が造成され、森林の蓄積は着実に増加しているもののその多くは保育・間伐の必要が必要な段階にある。森林所有者等の森林整備に対する意欲の低下が懸念される中で、森林の有する公益的機能の高度発揮に対する期待が高まっているところである。 また、当地区には、森林整備を効率的に実施するための基幹的な林道等の路網が十分でなかったことから、適切な森林施業への遅れが目立っていた。 このため、森林の公益的機能の高度発揮を目的として、森林整備が必要な森林への到達時間の短縮、労働力や資材の効率的な移動等により林業労働の軽減及び森林施業コストの低減を図り、適切な森林整備を促進することを目的に林道を整備した。 | |
| (事業概要) | |
| 森林基幹道整備 | |
| ①足馴線 車道幅員 4.0m 開設延長 4,311m 利用区域 1,652ha | |
| ②丸山線 車道幅員 4.0m 改築延長 628m 利用区域 2,244ha | |
| ③櫛形山線 車道幅員 4.0m 改築延長 1,541m 利用区域 2,679ha | |
| 総事業費 1,215,700千円 (当初総事業費 1,245,000千円) | |

| | |
|-------------------------|--|
| ① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化 | 平成25年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 費用対効果分析手法の見直しによる総便益の減少や、森林整備に要する費用を計上したことにより総費用が増加した。 総便益(B) 2,885,792千円 (事業採択時総便益 5,193,900千円) 総費用(C) 1,868,342千円 (事業採択時総費用 1,478,285千円) 分析結果(B/C) 1.54 (事業採択時分析結果 3.51) |
| ② 事業効果の発現状況 | ① 林道開設により、効率的な森林整備が可能となる路網から200m以内の森林面積が172ha増加し、施業地までの到達時間の短縮及び作業コストの低減が図られた。(足馴線) ② 林道改築により、崩落土砂や落石の除去など維持管理費用の軽減と通行車両の安全性の向上が図られ、櫛形山周辺を訪れる人々が年々増え、平成24年度には年間17万6千人となっている。(丸山線、櫛形山線) ③ 平成23年の台風12号、15号災害により県道南アルプス公園線が被災し、通行止に際して迂回路として機能した。(丸山線、櫛形山線) |
| ③ 事業により整備された施設の管理状況 | 当事業により開設された林道は、県及び各市が定めた林道維持管理要綱に基づき適切に管理されている。 また、側溝清掃や草刈等の作業を毎年実施しており、維持管理は良好である。 |